

「いのち」の教育実践事例

☆長井市立豊田小学校の実践

生命の継承の
大切さに
関する教育

一 「かかわり」を大切に、感動や成就感を味わわせ、自尊感情を育む教育活動 一

長井市内すべての小中学校では、『長井の心』10の子ども像の実現に向けた取り組みを行っています。その中から、本校で特に力を入れている、他者とのかかわりの中で思いやりの心やいのちを大切にする心を育む交流活動について紹介します。

○幼保小交流

次年度入学予定児を招いての交流活動を、すべての学年で年1回ずつ行っています。どの教科で、どのような交流をするのか、企画の段階から子ども達で話し合いを重ねていきます。児童の自発的・主体的な発想を重視しますが、年長児の発達段階に十分配慮した内容となるよう、また、本校児童にとっても意味のある活動となるように、教師も積極的に助言したり課題を指摘したりします。話し合いを重ねるにつれ、相手の身になっての発言が増えていき、交流会が「自分事」になっていきます。幼児の笑顔や「楽しかった。」という言葉が、児童たちの心を温かくします。相手を思いやる心を培うとともに、児童自身の自己有用感を高めることもねらいとしています。

○特別支援学校との交流

本校は、米沢養護学校長井校と併設しており、児童同士は日常的に交流を行っています。運動会や学習発表会、避難訓練などの学校行事も、可能な限り一緒に行っています。このような環境を活かしながら児童に温かい心を育むことをねらいとして、授業においても意図的に交流の機会を設けています。

児童たちは、長井校の児童・生徒の名前が分かり、その子の個性についてもある程度理解しています。同じ社会に生きる人間として、互いに正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていく素直な気持ちが育っています。

*今年度は、新型コロナウイルスの影響で交流を伴う活動を行うことができず、昨年度の様子を紹介しました。



1年生
生活科の
時間に「手作
りおもちゃ」
で交流しま
した。

5年生
一緒に水遊
びを楽しみま
した。
プールに入
る時の注意も
教えました。



みんなで手をつなごう！
みんな大切な「いのち」。

ちがいを認め合って、
相手のことを考えながら
仲良く交流し合います。

